

大 学 図 書 館 問 題 研 究 会 京 都

〒607 京都市山科区大宅山田町34 京都橘女子大学図書館 小林倫道気付
(Tel) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

* インターネット企画第2弾 !!

<インターネットのホームページを作る>

★ 第5回大学図書館員京都研究集会 ★

昨年の研究集会は「インターネット入門」と題して好評を博しましたが、一方で、「ホームページ作成が時間切れで出来なかった」「是非、続編をやってほしい」という感想が多数寄せられました。

我が大学図書館問題研究会・京都支部ではそれらのご要望にお答えして、HTML (Hyper Text Markup Language) を使って簡単なホームページを作成するまでを目標に企画を組みました。名付けて「インターネットのホームページを作る」。

前回同様、専門家の講師付き実習形式となります。インターネットについて基礎知識があり、ある程度キーボードを触ったことのある方を対象とさせていただきます。受講人数についても先着20名程度に限らせて頂きます。つまり、「早いもん勝ち」。あなたの積極的な挑戦をお待ちしています。開催場所、日時、申込み方法などについては下記の通り。

- | | |
|--------|-----------------------|
| 1. 日 時 | 11月10日(日) 午後1時～午後5時 |
| 2. 場 所 | 立命館大学びわこ・くさつキャンパス |
| 3. 参加費 | 2,000円 |
| 4. 講 師 | 津田圭司氏(立命館大学教育研究システム課) |

<申し込み方法>

往復はがきで「第5回大学図書館員京都研究集会参加希望」と明記の上、氏名、所属、連絡先を(返信側にも返信先住所とお名前を忘れずに)記入し、下記の住所までお申し込み下さい。交通機関など詳細を記したものを返送します。

また、20～25名を定員としますので、漏れる場合がありますのでご了承下さい。

<申し込み先>

〒606-01 京都市右京区吉田本町 京都大学附属図書館受入掛 川北恵美子
問合せは ☎075-753-2647(同上)へ

<注意>

会場及び近辺には食堂等がありません。昼食はあらかじめご自弁願います。

「学術文化の発展と洋書業界の役割」に関する集会について

10/12(出) 1:00 ハートピア京都 主催:洋書問題研究会・他

篠原 俊夫

1. はじめに

出版労連京都地協・洋書問題研究会がいまなぜ、洋書業界の役割について、研究集会を開催するのか。大学図書館の現場におられる人なら、直接洋書の購入手務に携わっていない人でも、おおよその検討はつくと思う。大学図書館における洋書の購入価格に関して、昨年3月の公正取引委員会の捜査が行なわれ、今年4月には公正取引委員会は業者間のヤミカルテルの存在を指摘したうえで、7業者に対して排除勧告をおこなった。業者は勧告に従わざるを得ず、関東地区の大学で2ヵ月、関西地区の大学で1ヵ月の間、一切の取引が禁じられた。これは業者にとっては無論のこと、大学図書館にとっても痛手であった。

数ある業種のなかで何故いずれかと言えば弱小な基盤しか持たない洋書業界がターゲットになったのかという疑問は残る。これまでのように統一した窓口を介して、業者と大学図書館が適正な購入価格を設定し、事実上大部分の国立大学がほぼ、同じ価格で洋書を購入できるシステムが違法と指摘されたのである。この措置によって、洋書価格は個別大学どころか個別部局のレベルでそれぞれ交渉され、決定されることになる。法を遵守しつつも購入手務はスムーズになされ、洋書はより適正な価格で取引され、大学も業者も失うものがないというなら万々歳であるが果たしてどうか。

根拠のない軽率な推断はつつしむべきだろうから、その後の現場の状況を正確に把握したうえで、この問題について率直な議論を交わすことが必要な時だと言える。

2. 洋書業界と大学図書館の現状について

貿易自由化にともなう消費者からの内外価格差解消の声の高まりは、商品としては極めて特異とも言える洋書販売業界をも例外とはしなかった。加えて、一般的に大学図書館の資料購入経費が横這いないし、縮小傾向にあることから、主として研究者サイドから、大学図書館の洋書購入手務の担当者に対して、直接購入によって少しでも安く図書を購入して欲しいという要求がだされはじめた。当然、大学からの洋書販売業者に対する価格引下要求は強まる一方であり、それに反比例して業者の利益率は縮小される。このままの傾向が変わらなければ、廃業や転業を迫られる業者も出てくることも考えられる情勢である。

図書壱1冊あたりのマージンがとるに足りないものになれば、大量に独占的な取引によってしか業者が生き延びる道は残されていないことになる。必然的に大手取扱業者による寡占化が進み、専門的な分野に関する情報に強い小規模な業者は、淘汰される。

大手業者は省力化を推し進める大学図書館から要求される購入手務の代替や下請けに協力することを条件に一手に受注することが可能になる。もはや、洋書の世界もスーパーマーケットにおける食品の売買と大差ないものになりつつあるようだ。なにより、大学図書館の現場で業者と図書館員が相互に情報を交換し、知識と経験を積み重ねるといことが絵そらごとになりつつあるのである。人と人が出会い、直接に言葉を交わすことが少なくなり、コンピューターを介した注文と航空貨物による配送が主流になれば、よかれ悪しかれ、多くの人間的なものは失われてゆくだろう。これは歴史の必然であり、止めることは不可能だという見解もあり得るだろう。無人図書館論も根強くあるし、機能を限定すれば

不可能というわけでもない。置かれた立場によって、利害が明確に違うという事情を考慮すると、議論を深めることは容易ではないが、避けて通れない課題である。

3. 可能性と展望について

根拠のない楽観論を排すれば、現実認識と近い将来の推測は可能だが、双方にとって、先行きはあまり明るくないということになるだろうか。私は現在、法学部の図書室にいるので、どうしても専門図書室（館）における洋書購入の現状から発想しがちである。大学図書館と一口に言っても、扱う主題と予算規模等によってまったく事情が異なることを普段は意識していないのだが、例えば、附属図書館が専門分野の洋書の購入窓口となることは単科大学を除いて考えにくいのではないか。洋書の購入はあってもごく一般的な分野に限られ、洋書業者の持つ情報に依存する程度は低いと思われる。仮に専門分野の図書が購入されるケースがあっても学部や研究所で選書された図書を業者に発注する方式をとるのではないか。そうであれば、大学図書館が業者に期待することは、価格と納入に要する時間だけになる。いかに安く、いかに早くということがすべてである。

一方、専門図書室（館）では、最新の出版事情やバックナンバーの在庫情報、重要資料について、業者に情報と経験の蓄積があれば、状況に応じた対応が期待できる。なによりも、資料の内容、出版流通事情に精通している業者に対する信頼感がなければ、短期間に迅速で的確な対応を要求される年度末の図書発注は不可能である。

競争原理導入の掛け声のもとに価格競争が激化し、その結果、少しでも安く洋書が購入できればということで、入札方式が多様されるようになれば、業者の選択は単に価格のみによることになり、業者の資質や努力は問われないことになる。しかし、当然のことだが価格は業者選定の重要な要素ではあるがすべてではない。ところが購入に至るまでのプロセスに関係する業者の情報提供をはじめとする無形の努力は、価格に反映されることはない。かくて販売業者の規模のみが生き残るための唯一の条件となる。

弱者必敗の社会ダーウィニズムに依拠すれば、当然の結論となるのだろうが、価格のみで勝負する書籍販売業者のみで、果たして大学図書館、なかんずく専門図書室（館）が将来にわたって信頼できる蔵書構築が可能なのだろうか。このことについて、議論が深められるべきだ考える。

4. おわりに

東京会場で催された同じ内容の集会では、もっぱら洋書の価格問題に焦点が絞られていたように見えるが、真相はだれもが共通の関心事として議論できる唯一の事項であったということかも知れない。京都会場では、できれば価格問題のみに終始することなく、広い視野にたつて議論を深めることができればというのが、主催者側の要望であった。そうなることを願っているが、格別事前の打ち合せもなく、参加者それぞれの置かれた状況もまったく違い、問題意識も関心のありかも違うという条件下で果たして、主催者の思惑にそった集会になるのか、心許ない気がする。

ともあり大学図書館と洋書販売業者は、困難でも共存することが必要であることには違いないのだから、この集会の場で忌憚のない意見や要望を出しあい、つき合わせることで、隘路を打開する道を見出せたらと思う。

(しのはら・としお／京都大学法学部図書室)

新連載 (4回シリーズ)

パソコン通信入門講座

第3回 「何が必要か・ソフト編」

小林 倫道

さて、第3回はソフト編。通信ネットへの入会のしかたと、必要なソフトのお話です。

実はパソコン通信というと、遠隔地のパソコン同志をつなぎ、電話の代わりにパソコン上でお話をするというのが原始的な形で、それこそ「パソコン通信」と呼ぶにふさわしいのですが、実際は何らかのネット(BBS)に入会し、そのホストコンピュータを介して会員同志でコミュニケーションを行ったり様々なサービスを受けるというのが一般的です。

パソ通ネットには、①加入者の会費で経営している「商用ネット」、②公的機関が運営している「公的ネット」、③民間でボランティア的に運営されている「草の根ネット」、の3種類があります。①にはNIFTY-Serve(ニフティ・サーブ)、PC-VAN、People、ASAHIネット等、たくさんものがあり、サービス内容や料金体系に違いがあります。②ではおなじみNACSIS(IR、MAIL)をはじめ、自治体等でネットを開いている例が最近増えていきます。また、公的機関ではありませんが、新聞社が読者の声を集める窓口としてネットを開いているケースもあります。多くの場合、利用料金は無料もしくは非常に安価です。③は文字通り民間でジワジワ、シコシコと活動している地道なコミュニケーションです。趣味や何らかの運動サークルが多く、個人や団体のボランティアや道楽で運営されています。家庭でパソ通のホストを開設するためのソフトが以前から販売されており、その気になれば個人でも簡単にネットを開くことが出来るのです。

さあ、加入ネットは決まりましたかな?。といわれても困るでしょうから、本講座ではNIFTY-Serve(ニフティ・サーブ)をお薦めします。理由は、サービスが充実している、最大の加入者数を誇る、それに加入料は無料、以後月額200円、接続1分当たり8円という低料金も最大の魅力です。これは、ソフトの設定にまごついて3ヵ月棒に振ったとしても、600円しか損しないことを意味します。ニフティで慣れてから、他のネットにもレパートリーを広げましょう。

加入申込は以下の方法で決まり。葉書等で申し込む普通の方法もありますが、スマートなのは、「オンライン・サインアップ」といってオンラインで申込みをしてしまう方法です。「え?。まだ加入してないのにどうやって通信するの?」。卵と鶏のような話にとまどいを隠せないあなた、まず本屋のパソコン関連のコーナーへ行きましょう。

パソ通関連の書籍はたくさんありますが、この場合はパソコン通信一般よりも、ニフティ・サーブ専門に書かれたものにしましょう。中にフロッピーやCD-ROMや「イントロパック」なるキットが付録についているやつが狙い目。対応機種に注意が必要ですが、最近ではWindows3.1対応、Windows95対応、Windows汎用、Macintosh対応ぐらいの違いですから単純です。

フロッピーやCD-ROMには通信ソフトやその他便利なソフトが収録されています。それらのソフトは、あらかじめニフティ向きに設定済み。そいつをパソコンにセットアップ(パソコンのハードディスクにソフトを組込むこと)。この作業の説明が分かりやすいような本を選びましょう。あとは解説の通りに細かい設定やアクセスポイント(接続先の電

インターネット企画第2弾!!

<インターネットのホームページを作る>

★ 第5回大学図書館員京都研究集会 ★

昨年の研究集会は「インターネット入門」と題して好評を博しましたが、一方で、「ホームページ作成が時間切れで出来なかった」「是非、続編をやってほしい」という感想が多数寄せられました。

我が大学図書館問題研究会・京都支部ではそれらのご要望にお答えして、HTML (Hyper Text Markup Language) を使って簡単なホームページを作成するまでを目標に企画を組みました。名付けて「インターネットのホームページを作る」。

前回同様、専門家の講師付き実習形式となります。インターネットについて基礎知識があり、ある程度キーボードを触ったことのある方を対象とさせていただきます。受講人数についても先着20名程度に限らせていただきます。つまりは、「早いもん勝ち」。あなたの積極的な挑戦をお待ちしています。開催場所、日時、申込み方法などについては下記の通り。

- | | | |
|--------|-----------------------|-----------|
| 1. 日時 | 11月10日(日) | 午後1時～午後5時 |
| 2. 場所 | 立命館大学びわこ・くさつキャンパス | |
| 3. 参加費 | 2,000円 | |
| 4. 講師 | 津田圭司氏(立命館大学教育研究システム課) | |

<申し込み方法>

往復はがきで「第5回大学図書館員京都研究集会参加希望」と明記の上、氏名、所属、連絡先を(返信側にも返信先住所とお名前を忘れずに)記入し、下記の住所までお申し込み下さい。交通機関など詳細を記したものを返送します。

また、20～25名を定員としますので、漏れる場合がありますのでご了承下さい。

<申し込み先>

〒606-01 京都市右京区吉田本町 京都大学附属図書館受入掛 川北恵美子
問合せは ☎075-753-2647(同上)へ

<注意>

会場及び近辺には食堂等がありません。昼食はあらかじめご自弁願います。

学術文化の発展と洋書業界の役割

主催 洋書問題研究会・出版労連京都地協

去る6月23日(土)に出版労連主催の出版研究集会の洋書分科会が行われました。テーマは「学術文化の発展と洋書業界」で、業者側から、洋書業界の最近の動向や価格問題と洋書業界の役割などが報告され、購買者から元東京農工大学図書館の和田長丈さんが報告されました。討論は価格問題や業界の役割について行われ、参加者は46名で大学図書館から20大学26名の方に参加していただきました。関西からも4名の方が参加され、関西での開催の要望をいただき今回の企画に至りました。

昨年3月の公正取引委員会の捜査、そして今年4月に勧告が出され、洋書業界をめぐる環境も昨年から大きく変化しています。業者と購買者の討議によって、洋書販売(購入)の問題点を見いだし、洋書取引の有るべき姿を模索する内容にしたい思います。

日時 10月12日(土) 午後1時～5時
会場 ハートピア京都 第5会議室

(京都市立総合社会福祉会館)

京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375番地

TEL 075-222-1777

交通機関 京都市営地下鉄「丸太町駅」下車

(地下連絡通路にて会館と連絡)

京都市バス、京都バス「烏丸丸太町」下車すぐ

◇ テーマ ◇

学術文化の発展と洋書業界の役割

◇ 業者側の報告 ◇

公正取引委員会の勧告について - 勧告をどう見るか?

洋書の輸入通関統計と海外通貨換算レートの推移

洋書業界の概要 - 業種と規模、倒産・廃業

価格問題と業界の役割

◇ 購買者の報告

洋書輸入における業界への要望 - 大学図書館関係者

◇ 討論のテーマ ◇

公正取引委員会の勧告をどう見るか?

洋書は高いか? - 適正な価格設定とは?

洋書業界の役割 - 購買者にとって必要な存在か?

購買者にとって必要なサービスとは?

今後の業界(業者)の役割と課題は?

話番号。ニフティのそれは全国いたる所にあり、本にもリストが載っている)をセットします。未加入者は申込用のゲストIDでネットに入れるようになっているので、接続して対話式に名前やクレジットカードの番号等を入力すれば申込み完了。数日後、正式IDとパスワードが送られてくれば晴れてネットワークの仲間入りです。

図書に限らず、雑誌の特集号やムック物にも同様の付録がついているものがたくさん出版されています。パソ通もコンピュータのハードもソフトも日々進歩していますから、なるべく新しいものを。少なくとも1年以上前のものは敬遠。

付録の通信ソフトには、そのままタダで使っていていいもの(フリーソフト、フリーウェア)と、別途使用料を払わなければならないもの(シェアウェア)の2種類あります。シェアウェアの場合は使用料と送金方法が書いてあります。これらは市販のソフトに比べて安価なうえ機能はバツグン、しかも試用して気に入らなければ送金は不要、というありがたい代物です。パソ通ファンの圧倒的多数がこうした何らかのフリー、シェアウェアを愛用しています。

人気ソフトは「秀Term」「EmTerm」「WTERM」など。ニフティ専用の「NIFTY Manager」「NifTerm」などもあります。「NIFTY Manager」はニフティ自身が開発、サポートしているフリーソフトです。ちなみに私は、旧DOS時代の「DOS版WTERM」(フリーソフト)を今だに使っています。

パソコンやモデムにも同様に「イントロパック」が付いている場合もあります(NECのパソコンなら同社経営のPC-VAN、という具合に)。それをそのまま使う方法もありますが、サービス内容や利用料金などよく考えて決めましょう。

最後に今回の標語。

オンライン・サインアップで、おいらの才能アップ (うっ、寒い・・・)

さあ、次回はいよいよパソ通の世界をのぞいてみましょう。本講座に関するご意見は、NIFTY-Serve:PXX01651まで。(L) (こばやし・ともみち/京都橘女子大学)

いつも
ニコニコ
現金払い

会費納入はお済みですか？

96 支部役員体制

7月2日の京都支部総会で承認されました。

●支部委員

- 支部長 篠原俊夫 (京都大学法学部図書室)
- 副支部長 竹本文夫 (元同志社大学人文科学研究所)
- 事務局長 大館和郎 (京都学園大学図書館)
- 支部報編集 井上雅人 (立命館大学図書館)
- 印刷・発送 川北恵美子 (京都大学附属図書館)
- 組織 堤美智子 (京都大学総合人間学部図書室)
- 財政 中島スエ子 (京都大学工学部航空宇宙工学図書室)

- 監査 末益尚文 (京都大学教育学部図書室)
- 福井京子 (京都大学教育学部図書室)

- 全国委員 篠原俊夫 (京都大学法学部図書室)

- ゴースト支部委員 松原修 (立命館大学エクステンションセンター)
- 小林倫道 (京都橘女子大学総務経理課)

※ 上記2名は配転によりやむを得ず支部委員の一線から退きますが、支部体制維持のため、しばらくの間支部委員会を草葉の陰からバックアップします。松原氏は企画・政策面での智恵袋として、小林氏は支部報編集を実務的にサポートします。

目次	インターネット企画第2弾!!…………… 1頁
	「洋書業界」研究集会 (篠原俊夫) …… 2頁
	パソコン通信入門講座③…………… 4頁
	96支部役員体制…………… 6頁
	大図研京都数珠つなぎ (第8回) …… 8頁
支部報に関するご意見は最寄の支部委員または編集気付 (京都橘女子大学 ☎075-574-4113 (FAX 075-574-4122) ♥ PXX01651@niftyserve.or.jp NIFTY-Serve:PXX01651小林) まで	

大図研京都数珠つなぎスペシャル

中間報告

これまで御登場頂いた方のリストです。こうやってみると、結構数珠らしくなってきましたねえ。これからもどんな人が出てくるか楽しみです。そろそろ私学の人にも出てほしいなあ。ひょっとして、あと100回ぐらいこの企画が続いたら、「じゃあ第1回の人から順番にもう一度。2周目に入ります」なんてことになるのかなあ。それとも全国走破をめざして他支部に広げようか……。

- 第1回 呑海沙織さん (京都大学工学部電気系図書室)
- 第2回 廣部繁子さん (京都大学附属図書館)
- 第3回 中村節子さん (京都大学工学部建築系図書室)
- 第4回 松延秀一さん (京都大学化学研究所図書室)
- 第5回 澤居紀充さん (京都大学経済学部図書室)
- 第6回 平川和子さん (京都大学文学部図書室)
- 第7回 松島 久さん (京都工芸繊維大学附属図書館)
- 第8回 大久保佳典さん (同上)
- 第9回 小川晋平さん (京都大学附属図書館) の予定
- 第10回 あなたかもしれない……

…… (図次ページより) ……

とどうもとんでもないことになるようです。

それからやはり、馬。強い馬が強い勝ち方をする。これが競馬の醍醐味のひとつでしょう。だから、一流馬が揃うGIレースは見応えがあります。もうひとつ、自分の気に入った馬好きな馬を追いかけるといふ楽しみ方もあります。丁度今 (原稿を書いている時点) 北と南で3歳の新馬が走っています。デビューしたての若駒たちです。その中から来年のクラシック馬 (正確にはなりそうな馬) を見つけ出して追い続けるのも面白いのではないのでしょうか。

そのほかに、調教師のことやトレーニング方法などを知るのも、それは雑誌などで知るわけですが仲々興味深いものがあります。

最後にひとつ予想をしてこの稿を締めくくりにします。暮れに行われる有馬記念、勝つのは田原成貴の乗るマヤノトップガン。

さて次回は、近畿北部地区の何やかやでご縁のできた京大附属図書館の小川晋平さんです。京大の前は滋賀医大におられました。では、よろしく。

「数珠つなぎ」のルール

①内容は硬軟自由。②原稿量も1ページ程度以上で自由。③執筆者には次回執筆者を指名する義務があります。④指名された人はもちろん拒否権なし。

| 衝撃の新コーナー!!

京都工芸繊維大学

附属図書館

雑誌情報係

おおくぼよしのりさ |
大久保佳典 さん

● 大図研京都数珠つなぎ 第8回 ●

前回の松島さんからリリーフ役としてご指名を受けたのですが、その役が務まりますか
 でしょうか、どちらかというとなボカスカと打たれて、台なしになってしまうのではないで
 しょうか。ま、投げてみなければわからない、ボールの行方はボールにきいてくれ、とい
 った方が正しいところです。

京都工芸繊維大学に勤めて18年目になります。ずーっと同じ職場で、和書の整理から
 始まり現在は雑誌の担当です。最近疲れ気味でして、この暑い暑い夏のせいばかりではあ
 りません、疲れというよりも、どちらかといえばストレスですか、こいつを些かなりと
 も解消するために土曜・日曜があつて良かったなという日々です。

土曜・日曜に何があるか。競馬があります。競馬を「趣味」といっていいのかどうかよ
 くわかりませんが、その面白さにハマっているのは確かです。競馬のキャリアはそれほど
 長くありません、せいぜい10年かそこらです。どうして始めたのか何かきっかけがあつ
 たのかはもう忘れてしまいました。ただ、今のところ一生のお付き合いだとは思っていま
 す。最初のころは、淀の京都競馬場へ行って目の前でレースを見ていてもどの馬が勝つた
 のかさっぱり判らなかつたものが、何度も競馬場へ足を運んで見ている内にそれが判るよ
 うになってくるのですから、馴れというものは不思議なものです。

競馬? ギャンブルだ。と、嫌うひと多いでしょうが、事実ギャンブルに違いないわけ
 で、でもそれだけではない、と小生は思うわけです。JRAはコマーシャルなどで競馬を
 レジャーあるいはスポーツとしての要素を前面に出してきています。ここ数年JRAのコ
 マーシャルはほんとに多い、金持ちだからなあJRAは。しかしその金はどこから出てい
 るのかといえば、小生たちの懐からなのだよな、まったく。で、そのソフトなコマーシ
 ャルのせいもあつてか若いひとたちの数が凄く増えたようで、それ自体はいいことだと思
 います。競馬場の雰囲気も変わってきましたし。JRAの方向もあながち間違つてはいませ
 ん。がしかし、競馬の根っこは、当たり前のことながらギャンブルなのだということは押
 さえておいたほうがいいでしょう。でもそれだけではない、と。じゃ何だということを説
 明できればいいのですが、うまくできそうもありません。

そのかわりといつてはなんですが、小生が面白いと思つているところをお話しします。
 ひとつは、騎手です。レースでどのような乗り方をするかを見ることです。ゲートの出の
 上手下手、馬を走らせているときの騎乗フォームに手綱の持ち方、長く持つのか短いか、
 道中での位置取り、前へつけるのかそれとも思い切って後方から行くのか、ハナに立つの
 か、直線を向いてからどのタイミングで追い出すのか、馬場の外へ馬を持ち出すのか内へ
 突っ込むのか、などなど。そういった騎手の技術を見ても面白いものがあります。因
 みに好きな騎手は田原成貴です。イマジネーションが豊かで、魅せる乗り方をします。今
 年の桜花賞をファイトガリバーで勝っています。

次は、血統。ところがこれについては詳しくありません。それにここに足を踏み入れる

(前ページへ)